

第27回高座豚枝肉共進会、最優秀賞を清水建待さんが受賞



(株)セントラルフーズ(村上正裕社長)は11日、「第27回高座豚枝肉共進会」を(株)ミートコンパニオンで開催した。共進会には10農家から30頭が出品され、審査の結果、最優秀賞(3頭1群の部)は綾瀬市の清水建待さんが受賞した。また、出品豚の中から1頭選抜されるチャンピオン豚賞は門倉幸治さんの出品豚が受賞した。また、おいしい豚賞(パルミン酸、ステアリン酸、オレイン酸含有量などから選出)は、横山清(綾瀬市)が受賞した。

共進会は、高座豚のカット・成型を行う(株)ミートコンパニオンを会場に開催。出品者の紹介に続いて、同社原料部の北村陽三部長から審査基準について説明が行われた。審査は3頭1群で外観、肉質、脂肪、締めりをそれぞれ5点満点で評価して、合計点で序列を決定した。褒賞授与式では、村上社長から最優秀賞を受賞した清水さんを筆頭に表彰状と記念品が授与された。その後、村上社長は丹精込めた高座豚を安定供給する生産者に感謝を述べたあと、「高座豚は消費者からの信頼が高く、安全でおいしい銘柄豚として流通量も安定している。今後も技術向上と安定供給を図るためのビジネスパートナーとして、消費者からの要望を生産現場にフィードバックすることで、さらに高品質な高座豚の供給を期待する」と述べた。続いて、銘柄高座豚研究会の飯島瑞樹会長が謝辞を述べ閉会した。

会場を中華料理慶福楼に移して懇親会に入り、同社の清瀬宣廣取締役生産統括部長が開会の辞を述べた。続いて、同研究会の横山正至副会長は「養豚業を取り巻く環境は厳しいが、研究会としては、消費者に安全でおいしい高座豚を提供していく」と述べた。続いて、ミートコンパニオンの植村光一郎常務取締役は「日本の畜産物は海外での評価が高いことから、高座豚のような付加価値のある誇れた豚肉の海外輸出や海外からの観光客に向けて、流通業者がしっかりと販売していきたい」と激励した。そのあと、金子畜産の金子渉代表取締役社長の乾杯の音頭で懇親会に入った。そのほかの入賞豚出品者は次のとおり。優秀賞 門倉幸治(秦野市)▽優良賞 横山正至(横浜市)。

全畜連共進会(和牛去勢の部)、最優秀賞に飯坂さん、桑原が落札

全畜連は13日、東京食肉市場で平成27年度肉用牛枝肉共進会(第2部黒毛和種去勢の部)を開催。出品された60頭の中から最優秀に選ばれたのは、飯坂昇一さんの出品牛(父・安福久、母の父・勝忠平)で、格付A5(BMS No.12)、枝肉重量は538kg、(株)桑原が枝肉単価3346円で購買した。

上位入賞牛出品者、成績、購買者は次のとおり。▽優秀賞1席(株)加藤牧場 格付A5、枝肉重量569kg、単価2711円、アンデス食品(株)▽同2席(株)島田昭、A5、567kg、2598円、(株)日山畜産▽優良賞1席(株)森誠、A5、513kg、2590円、(株)ウスネ。